



交換留学帰国報告書

記入月日: 令和2年3月30日

氏名: 渡辺 夏実

留学時所属&学年: 教育学部英語科専攻4年

留学先大学	フィンドレー大学
留学先国	アメリカ合衆国
留学期間	約8カ月
留学開始一終了日	2019年8月14日 - 2020年3月24日

報告書上での氏名公開について (どちらかに○をつけてください。)

帰国報告書 : 公開を 希望します ・ 希望しません

月例報告書 : 公開を 希望します ・ 希望しません

【留学前: 留学に至った経緯や留学準備について】

1. 交換留学を希望した動機について教えてください。

長期留学を意識し始めたのは福井大学へ入学した当初でした。また、私が交換留学を希望した理由は主に2つあります。1つは長期間、海外の大学で生活し、現地の人と同じような生活を送り、多様なアプローチでその国についての理解を深め、自身の経験を深めたかったからです。2つ目は海外の教育学部の授業を受けて、その国の教育システムや授業方針について学び、将来英語教員になる際にその知見を応用したかったからです。様々な国から同年代が集う環境は、自分を鍛えるためには刺激的なものになると思い、交換留学を志望しました。

2. 留学準備を始めた時期はいつ頃ですか。何から準備を始めたかについても教えてください。

交換留学に申請するための準備を始めたのは大学3年生の後期からでした。どの交換留学プログラムにも語学能力試験の点数の規定があるかと思います。したがって、大学3年生の後期から申請期間までは主にその試験の対策の時間にあてていました。現実的にまずは、点数を取らないと始まらない部分もあるので、申請期間から逆算して余裕をもって臨むことをおすすめします。(私の場合は教育実習等あり、まとまった時間が取れたのが3年の後期からでした)ちなみに交換留学に対して意識していたのは大学入学当初からでした。

3. 留学先を決めた経緯について教えてください。また、派遣先の大学や現地情報についてどのように情報収集を行いましたか。

フィンドレー大学はこれまで多くの英語科の先輩方が留学に選ばれたこともあり、先輩から直接お話を聞いて情報を集めていました。また、私自身短期の留学プログラムでフィンドレー大学に赴いた経験があり、その時知り合った大学の職員の方にお話を聞くこともありました。

4. 留学に向けての語学試験対策、各種語学能力試験などの受験回数について教えてください。

この交換留学に申し込む上で、TOEFL iBT の受験は必須だったので、まずそれに向けて準備をしました。関連する参考書は福井大学キャンパスの図書館の2階にあるLDC 語学センターにあったのでそれを活用しました。受験回数は1回です。また、帰国後の自身の英語運用能力の向上を可視化するために TOEIC も受験しました。自身の英語力を計測することが目的だったので、あえて事前に対策をすることはしませんでした。こちらも受験回数は1回です。

5. 留学準備を進める際に役に立ったことについて教えてください。

(例: 助言教員、国際課、留学経験者からのアドバイス、大学情報ウェブ、留学オアシスなど)

やはり、留学経験者である先輩方のアドバイスはとても大きかったです。ネットからの情報だけでは読み取れないような経験者だからこそ分かる・知っている内容を教えていただきました。また、留学先の国際課のような部署に所属している方が福井大学に来られた際にもお話をする機会があったのですが、それもとても有意義でした。

6. 渡航前の履修登録や単位認定に関して、苦労したことやアドバイスはありますか。

留学前に卒業に必要な単位はほぼ取り終えていて、単位交換等考える必要がなかったので特に苦労したことはないです。私の場合は渡航後に履修登録を行ったのですが、あまり説明もないまま、いきなり履修登録をする流れになってしまったので、時間がある渡航前に留学先の大学のサイトにいき、どのような授業があるのかの確認や、自分が興味があるある授業の目星を付けるなど、少しでも自分が受けたい授業を受けられるよう、渡航前に出来る事前準備はしっかり行った方が良いと思います。授業のシラバスを読むのはとてもワクワクしますよ！☺

【留学中: 大学生活や日常生活について】

A. 大学生活

1. 大学の校風や雰囲気はどうでしたか。

フィンドレー大学は他のアメリカにある大学と比較すると小さめの規模の大学なので、「Go Oilers!」(Oilers: フィンドレー大学に通う学生の愛称)という掛け声のもと、大学としてまとまりがあるなというのが第一印象です。また、日本を含めた様々な国からの留学生も多いので異文

化に対する受け入れも手厚い印象です。

2. 大学構内の設備(ネット環境、学習支援、スポーツ施設等)について教えてください。

キャンパス内には十分すぎる Wi-Fi 環境が整っています。留学生を対象とした ELL Support Center がライティングの添削を見て下さるので課題の提出前に毎回添削をお願いしていました。また、フィンドレー大学はスポーツが盛んで、キャンパス内のジムは学生なら無料で利用することが可能です。ロッククライミングが出来たり、本格的なジムさながらの器具があったり、ビリヤード台、卓球台、スカッシュが出来る空間があったりと、本当に充実しています。また、毎日無料のエクササイズクラスも開講しており、気軽に参加することが出来ます。私は毎週ズンバとキックボクシングに参加していました。

3. 参加していたサークルや部活はありますか。部員の数や活動内容、イベントなどについて詳しく教えてください。

フィンドレー大学には多くの学生組織があり、その中のいくつかに参加していました。例えばアフリカ諸国に対する理解を深めることを目的にした Findlay African Students Association (FASA) やスキューバダイビングクラブ、UFOSEA といった教育学部の学生の団体に参加していました。参加人数は15人から20人程度だったかと思います。週に1回、月に1回ミーティングがあり、そこで各団体のテーマに沿ったアクティビティをしたり、時には食べ物を交えたりしていました。FASA ではアフリカや黒人の方をテーマのイベントや、UFOSEA ではハロウィンの時期にカボチャにペイントするイベント、スキューバダイビングクラブでは、無料でスキューバダイビングを体験できるイベントがありました。

B. 授業や勉強

1. 留学先で履修した科目

- | | |
|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none">●科目名(担当教員名): Phonics and Foundation of Literacy (Dr. Baer)●時間数/週(単位数): 1時間15分/週2 (3単位)●クラスの学生数: 約10名●授業内容・課題(予習・復習の方法等):
科目名は馴染みのないものかもしれませんが、日本語では識字教育と呼ばれるものです。英語の発音の仕方や読み方の指導をどのように教師として行うのかについて学ぶことが出来ます。指定された教科書があるので、毎週の課題としては指定された章を読み、自身が興味や関心があるフレーズを選択し、なぜ興味を持ったのか、そのフレーズは今後教師を目指すうえでどのように重要になるのかを1つのパワーポイントにまとめて授業内で発表するというものがありました。その他にも教科書内に出てきた専門用語を自身がどの程度理解しているのかをパワーポイントを用いて定義づけをし |
|---|--|

	<p>たり具体例を出したりするものもありました。この授業は予習・復習は必須だったので、教科書を中心に分からない単語を調べたり、内容を確認したりをしていました。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Elementary Spanish (Ms. Perez-Gamboa) ●時間数/週(単位数): 50分/週2 (3単位) ●クラスの学生数: 約15名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 科目名に「Elementary」とあるように、スペイン語の基礎的な単語や文法を教科書に沿って学習しました。隔週で各章の確認クイズがあったり、ペアを組んでスピーキングのテストを受けたり、筆記の中間・期末試験があったりしました。課題も教科書に沿ったもので、文法がメインでした。この授業においても予習・復習は欠かせませんでした。スペイン語で書かれている内容を英語に直して、それでも分からないものは日本語に直すと、3ステップの過程が必要な場面が多かったです。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Film Photography (Mr. Cunningham) ●時間数/週(単位数): 1時間50分/週2 (3単位) ●クラスの学生数: 約15名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): フィルム写真に必要な機材は大学から借りることが出来る(プラス50USD かかります)ので、時間さえ合えば気軽に取ることの出来る授業かと思います。授業内容は、フィルムカメラの構造、ネガの出し方、フィルム写真の現像の仕方を学んだり、有名写真家の作品を授業内で話し合ったりします。ほとんどの学生がフィルムカメラを扱うことは初めてなので、分からないことがあれば専門の先生が丁寧に指導して下さいます。10何秒異なるだけで現像する写真の色味や雰囲気が大きく変わるので、その変化をみるのはとても興味深かったです。隔週で1つテーマに沿って写真を撮り、授業内で発表するのが主な課題です。扱ったテーマは「フィルム写真に慣れる」「動き」「写真加工をしてみる」です。この授業は実技系なので特に予習や復習といったものはしなかったです。
4	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Experience in Japanese (Dr. Sipple) ●時間数/週(単位数): 1時間/週1 (1単位) ●クラスの学生数: 約25名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): この授業は日本人留学生必須の授業でした。現地のアメリカ人学生と日本人留学生が取ることの出来る授業で、主に日本文化について学ぶ授業です。「え、アメリカに留学するのに日本文化？」と思う方もいるかもしれませんが、例えば『縦社会』『先輩・後輩』『本音と建て前』といった日本特有の文化についての説明を要求された時、すぐに説明出来ますか？実際このようなトピックが授業内で取り上げられ、一緒に授業を取っているアメリカ人の学生に説明する場面がありましたが、恥ずかしながら私は上手

く説明することが出来ませんでした。今まで当たり前感じていた日本文化を再認識すると共に自文化に対する理解が深まります。また、それらを英語で説明することによって英語力の向上も見込めます。課題は隔週で日本文化についてのレポートを提出したり、アメリカ人の学生とキャンパス内のイベントに参加したりがありました。この授業は指定の教科書がなく、毎回の授業でピックが共有されるので予習・復習は特にしませんでした。

2. 授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫をしたことはありますか。

毎回の授業の出席はもちろんのことですが、特に復習に力を入れていました。分からない単語や内容について調べることは欠かしませんでした。また、授業の内容に関して分からない部分等あった際には、「分からないまま」にせず、すぐに教授に質問しに行ったり、アポイントを取って聞きにいったりしました。

3. 学習面で困ったことや、その解決方法について教えてください。

やはり第二言語である英語を用いて課題を提出することに対して「自分の英語は大丈夫か」と不安がありました。そういったライティングの添削を行って下さるサポートがあるので、課題の提出に関しては大丈夫でした。

4. 授業スタイルはどのようなものでしたか(講義聴講、ディスカッション等)。また、それに対してどのような印象を持ちましたか。

ほとんどの授業は講義聴講かつディスカッションも交えたものが多かったです。(写真の授業は体験型の授業でしたが)授業内でディスカッションのパートに入ると、どの学生も自分の意見を持っているということが当たり前でした。フィンドレーの学生は極端な例ですが、例えば自分がそのピックに対して間違ったアプローチで意見を述べていたとしても、それを自分の意見として自信をもって周りと共有することが出来るのです。そのような場面を留学中に何度も見ました。日本の大学では基本的に学生は受け身で、自分から意見を述べる機会等少ないかと思えます。そのため、フィンドレーの学生の積極的な意見交換の様子はとても新鮮でした。「留学生」だからといって意見交換している様子をただ傍観するだけでなく、『あなたは思うの?』と意見を求められる場面も少なくありませんでした。最初はすぐに自分の意見を準備することが出来ず、悔しい思いをしたことが多かったですが、回数を重ねるごとにどのように自分の意見をまとめるかの訓練を行うことができ、初期と比べると上手くなったのではないかと感じます。

5. お薦めの教員や授業などがあれば教えてください。

私が履修登録の際に意識したのは「日本で受講することが出来るか」という点です。したがって私が受講した授業にはフィルム写真やジャズ音楽の歴史、スペイン語など日本では受講

出来ないものが多くあります。特に実技系の授業は本格的な器具や専門の教授の手厚いサポートがあるので、留学を機会に受講するのも良いと思います。

C. 居住環境や日常生活

1. 居住場所について教えてください。

形態	<input type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input checked="" type="checkbox"/> その他(キャンパス内にあるハウス)
部屋人数	(1)人部屋
寮・アパート名	261 Foulke Ave.
家賃に含まれた費用	<input checked="" type="checkbox"/> 光熱費 <input checked="" type="checkbox"/> 水道代 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット代 <input type="checkbox"/> 食費 <input type="checkbox"/> その他()
ネット環境	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
室内設備	<input checked="" type="checkbox"/> ベッド <input checked="" type="checkbox"/> 机 <input checked="" type="checkbox"/> 椅子 <input checked="" type="checkbox"/> クローゼット <input type="checkbox"/> 電話 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> シャワー・浴室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房機器 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (洗濯機、乾燥機)
共用設備	(洗濯室、コンビニなど自由に記入してください。) キッチン、洗濯機、乾燥機、テレビ、シャワー・浴室

2. 大学、住居周辺の施設について教えてください。

(銀行、現地のスーパー、日本食レストランやスーパーの有無など)

大学周辺にはファストフードのお店(ピザやハンバーガー)が何軒か点在し、最寄りのスーパーが1軒あります。車で3分程、歩いて15分程のところにはダウンタウンがあり、日本食レストランやアイリッシュパブなど多くのお店があります。

3. 現地銀行開設の有無や、現金入手方法、クレジットカードの利用頻度などについて教えてください。また、留学費用や現地での支出の管理はどのようにしていましたか。

現地での銀行開設はしていません。普段の生活からクレジットカードを利用していました。(買い物や大学のカフェテリアでの会計等)どうしても現金が必要な時は、大学にあるATMから現金を引き出していました。(手数料が少し高いです)
支出の管理はエクセルで家計簿を作り、1日・毎月単位で自身の支出の流れを可視化し、管理していました。

4. 渡航直後に必要だったものや、あって便利だったものを教えてください。また留学期間を通して、日本から持参すべきだったもの、持参しなくてもよかったと思うものはありますか。

個人的にあって便利だなと感じたのは、洗濯で用いるものです。具体的には洗濯ローブや、洗濯する服を溜めておける洗濯かご、洗濯ばさみ、靴下やちょっとした汚れを落とす際に使用していた洗濯板、石鹸等が持参して便利だったなと感じるものたちです。石鹸は別ですが、それ以外は百円均一で買えるものなので手に入りやすいかと思います。逆に持参しなくてもよかったなと思うものは、シャンプーやコンディショナーといった消耗品です。そういったものは渡航の際にスーツケースのスペースや容量を占めてしまうので、持参するよりも現地で買ったほうが良いと思います。

5. 留学にかかる必要経費について教えてください。(現地通貨＝USドル)

内容	金額	内容	金額
渡航費	約30万円(往復)	食費	約4,000USドル
保険代	約18万円	家賃	約5,200USドル (2学期)
予防接種・ビザ代	160USドル	教科書代	約500USドル
交際費(外食等)	約1,500USドル	その他	約35万円(旅行代)

合計： 約200万円

6. 文化・習慣の違いなどで気をつけていたことやアドバイス(服装・マナーなど)があれば教えてください。

アメリカ人の方は会議中や授業においても手や足を組む場面が多いです。それは決して機嫌が悪かったり、話を聞くことに対してネガティブな印象を持っていたりするということではなく、ある種リラックス法の1つです。そういった場面に出くわしても慌てず、そういうものと受け入れる寛容性が必要です。

D. 健康管理

1. 周辺の病院や学内での医療サービスについて教えてください。

学内に大学に在籍している学生なら無料で診察を受けることの出来る施設(Cosiano Health Center)があります。薬の処方もしていただけるので、風邪を引いたときや熱が出た際には病院に行く必要がなく、とても便利です。

2. 留学中に通院や入院はしましたか。その際にかかった医療費はいくらでしたか。

通院、入院ともにありませんでした。

3. 渡航前に必要だった健康診断や予防接種、日本から持参した薬などはありますか。

特に必要な健康診断や予防接種はなかったと思います。日本から持参したのは普段から服用している処方箋です。

【留学後：成果や今後の進路について】

1. 交換留学の成果について教えてください。

留学前に設定した目標が達成できたか/留学先での学業や生活を通して学んだこと/留学前に期待した以上に達成できたこととその理由/留学中、特に努力したことや心掛けたこと/留学を終えて変わったことなど

留学を終えた今、振り返るとアメリカにいた約8カ月は本当に充実していて心の底から楽しかったと言えます。しかし、留学真っ最中の頃は先述のように楽しさだけではなく辛さもありました。留学の目標に「自分に自信をつける」と「日本文化を現地の人と共有したい」、「アメリカという国の文化に直接触れる」という大きく3つのものを掲げていました。これらの目標を掲げた理由として、留学前は、自分の軸や意見をもつことが苦手で、他の人の発言や自信に満ちた姿勢に圧倒されることの方が多く、自分自身について分からなくなることがありました。また、日本文化を紹介する機会は日本にいと中々得ることが出来ないの、挑戦してみたいという気持ちを長年温めてきていました。さらに多文化について紙媒体やネットからの情報だけでなく、直接自分が体感して知見を広めていきたいと思っていました。そのような背景から、留学中は自分探しをし、現地の人との交流を通してアメリカ文化を体感していこうと決めました。

しかし、留学当初は自分が周囲からどのように見られているのか、どのような言動をすればアメリカ人の方に好かれるのかを気にしてしまったり、他人と自分を比較したりして、息苦しい状態が続いていました。そんな私の助けになったのは、日々のアメリカでの生活でした。もっと具体的に言えば、アメリカでの日々(文化)を自分の中に取り込む際、ただ文化自体を吸収するのではなく、自分の価値観に合うかどうかというワンクッションをはさみながら考えていたことです。その中で新しい価値観に気付くこともあれば、自分がもともと持っていて気付いていなかった価値観に気付くことが出来ました。また、人との交流を通して学ぶこともありました。そしてそのような状況が続いていく中で、自然に「周りに好かれる自分」ではなく「自分が好きな自分」でいられるようになってきたと思います。後者の自分を出しても、異国の地で、世界中の人と友だちになれた経験は私自身に自信を与えてくれました。アメリカでの生活は自分らしくいればよいのだと気付かせてくれるもので、新しい出会いに対しても物怖じしなくなったのではないかと思います。

さらに「日本文化を現地の人と共有したい」という目標から、異文化活動に積極的に専念することを意識していました。そのかいあって、学内外のイベントに参加することが出来ました。そこでは書道や折り紙だけでなく、よさこいやお好み焼きとカレーを披露する場面がありました。また、ボーイスカウトのイベントに参加した際には日本の地理・自然資源・気候等の普段よくイメージされる日本とは少し異なるアプローチからのプレゼンテーションをしたり、紙芝居を披露し

たりしました。先述した通り普段の生活では中々体験することが出来ないような事柄に取り組むことができ、とても満足しています。

約8カ月の留学を通して、少しずつではありますが、自分の英語力の向上を感じています。現在コロナウイルスの影響で語学能力試験等受けることが出来ない状況なのですが、目に見える形で自分の能力の伸びを確認したいと考えています。

フィンドレー大学での生活はこれからの自分の人生において大きな糧となる貴重な経験となりました。このような素晴らしい機会を設けていただいた全ての方には感謝してもしきれません。今後は自分の留学経験を出来るだけたくさんの人と共有し、フィンドレーで出会った人たちとの繋がりを大切にしながら、次なる目標へ向かって精進していく所存です。

2. 留学中に達成が出来なかったことやその理由、反省点があれば教えてください。

十分満足のいく留學生活だったのですが、反省点やもう少し出来たのではないかという点を挙げるなら、留学当初から、「コミュニティの繋がり」を作っておくべきだったなと思います。新しい環境、なおかつ話す言語は英語ということもあって、話かける際に物怖じしてしまい、自分から1歩踏み出せない場面が多々ありました。「1年の計は元旦にあり」という言葉があるように何事も始めが肝心です。もっと勇気をもって留学当初から行動出来ていればな、と少し後悔しています。

3. 今後の目標や挑戦したいこと、進路や就職活動について教えてください。

留学後の目標としては、海外のニュースや文化についてアンテナを張り、常に情報をアップデートかつ自身の知見をさらに深めていくことです。また、留学で得た「繋がり」を大切にしていきたいです。進路につきましては、福井県で英語教員を志望しています。

4. あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージをお願いします。

ここまで読んでいただきありがとうございます。最後に私の方から交換留学を考えている方へメッセージを書かせていただきたいと思います。

フィンドレーを留学先を選ぶことで得られる利点は多くあります。まずはフィンドレー大学のあるオハイオ州はアメリカの中でもトウモロコシ畑や農牧地が広がる大平野に位置し、正直に言ってしまうと比較的「田舎」と表現出来てしまうような場所です。しかしながらそのような環境で長期間暮らしてみると今まで自分がもっていたイメージとは異なるアメリカという1つの国を見ることが出来ます。国土が広く、1つの国の中でも多様な文化が広がるアメリカだからこそ感じられる事柄なので、とても面白いです。また、休暇中に旅行で都心部へ行くとさらに多種多様なアメリカ文化を強く肌で体感し、気付くことが出来ました。

そして、大学の規模や大学の位置する街が大きすぎない点も良さの1つだと思います。大きすぎない分、友人・大学スタッフ・教授たちとの人間関係をより密に築くことが出来ますし、人脈を活かして、活躍の機会に手が届きやすいです。

さらに、日本文化を紹介出来る機会が豊富なのもフィンドレー大学の魅力的な点の1つです。活動から、いかに自分が日本文化を知らなかったのかに気付かされます。また、アメリカから見た日本はどのようなものなのかについても活動を通して知ることが出来ます。アメリカでの留学で学べることは、アメリカ文化だけではないのです。

最後に、留学先がどの国のどの地域でどれくらいの大きさの所になるかは、どのような留学生活を送れるかの大きな決め手の1つになります。しかし、どこで留学することになったとしても、1つ共通して言えることは、すべては自分次第だということです。正直に言うと留学生活は楽しいことばかりではありません。自分と人を比べてしまうなど、思い通りにいかないこと、つらいこと、もちろんあります。けれど、そのような現状をポジティブに受け止め、辛さや大変さを自分の成長の糧にすることで、限られた留学先での時間をより実りあるものにする事が出来ます。

留学を少しでも考えている皆さん！留学がしたいならその気持ちは絶対に諦めないで下さい。諦め切れな程の思いを持ち続けてこそ、どんな形であれ留学することになればその時間を最高のものにする事が出来ます。応援しています。頑張ってください！

